

# 栃木県における院内保育・病児保育施設一覧

## 資料1

【研修指定病院における状況】

研修指定病院数	10		
	あり	なし	% (あり)
院内保育	7	3	70.0%
病児保育	7	3	70.0%
病後児保育	7	3	70.0%

(平成29年度実績)

No	施設名	種別 (研修病院orその他施設)	院内保育			病児保育				病後児保育			
			院内保育 (有or無)	定員	入園待ち (有or無)	医師の利用 (可or不可)	病児保育 (有or無)	予約 (必要or不要)	定員	年間利用 人数	医師の利用 (可or不可)	病後児保育 (有or無)	医師の利用 (可or不可)
1	済生会宇都宮病院	研修病院	有	80	無	可	有	必要	12	1307	可	有	可
2	上都賀総合病院	研修病院	有	27	無	可	有	必要	2	3	可	有	可
3	とちぎメディカルセンターしもつが	研修病院	有	20	無	可	無	-	-	-	-	無	-
4	新小山市市民病院	研修病院	有	20	無	可	有	必要	3	125	可	有	可
5	佐野厚生総合病院	研修病院	有	30	無	可	無	-	-	-	-	有	可
6	足利赤十字病院	研修病院	有	35	無	可	有	必要	院内保育定員を超えない	無	可	有	可
7	那須赤十字病院	研修病院	有	50	無	可	有	無	-	110	可	有	可
8	芳賀赤十字病院	研修病院	無 (民間委託有)	-	(有)	(可)	無	-	-	-	-	無	-
9	自治医科大学附属病院	研修病院	無 (法人委託有)	-	-	-	有	必要	4	263	可	有	可
10	獨協医科大学病院	研修病院	無	-	-	-	有	必要	6	171	可	無	-



# 1. 栃木県 病児保育施設「おはなほいくえん」

病 院 名 栃木県済生会宇都宮病院

# 栃木県宇都宮市 病児保育施設「おはなほいくえん」



## 保護者の子育てと就労の両立を支援し、 児童の健全な育成を図ります。

### 1. 事業所の概要

おはなほいくえんは、地域に開かれた病児保育施設です。済生会病院の医療と看護に関わる専門集団の知識と技術を活かしながら、病児の保育環境確保と、子育て家庭の支援を図る病児保育の地域活動事業として開設されました。



OHANAの頭文字のOの丸からレイ(花輪)と太陽をイメージしてマークをデザインしました。  
OHANA(おはな)はハワイのことばで深い繋がりを持つ家族という意味を持ち、お互いに助け合うことをいとわぬ親しい友人や仲間のことオハナと呼ぶことがあります。

設置年月日	平成27年4月1日	
実施場所	栃木県宇都宮市竹林町941番地3 栃木県宇都宮済生会病院敷地内	
開所日(時間)	月～金曜日8:00～18:00 土曜日8:00～13:00 日曜・祝祭日・年末年始・創立記念日除く	
対象者	宇都宮市内(連携13市町含む)就学前乳幼児から小学校就学児童	
利用定員	12名	
H29年度利用者数	1,307名	
事業従事者数	6名(保育士4名・看護師2名)事務(兼務)	
1日当たり利用料	非課税市民・ひとり親家庭	0円
	生活保護世帯	0円
	その他の世帯	2,500円

### ① 子育てをしながら安心して就労ができる環境造り

#### 【利用の流れ】

- ① 原則、前日までに電話予約を行う。（当日予約も可）
- ② かかりつけ医師に「利用連絡票」を記入してもらう。
- ③ 当日、「病児・病後児保育事業利用申請書」「利用連絡票」を持って行く。

#### 【設備の充実】

- ① 感染症対策の一環として、開設当初より陰圧室2部屋を設置。



#### 【取組の効果】

・平成29年度は1,307名の利用者であったが、平成30年度は1,424名の利用者数増となり、受入れの充実を計った。特に冬季のインフルエンザ等の感染にも対応できる陰圧室を2部屋設置したことにより、フル稼働となった。

## ②送迎対応（お迎えサービス）

保育園あるいはこども園でお子様が体調不良となった際、保護者が仕事の都合で迎えに行くことが出来ない場合、病児保育施設の看護師、保育士がタクシーを使用し、保護者の代わりに保育園あるいはこども園へ迎えに行き、病児保育施設が連携している医療機関の医師の診察を受け、保護者が迎えに来るまで、病児保育施設で一時的にお子様をお預かりする事業です。



### 【取組の効果】

・タクシーによる送迎サービス（タクシー料金は宇都宮市負担）でお迎えに行き、済生会病院で診察を受け、そのまま預かるサービスも、年間10名の利用件数となり、地域貢献を果たした。

### 3. 今後の課題

平成30年度のキャンセル率は37.4%となり、事前予約により保育士数3対1の配置人数を設定するが、約4割のキャンセルに伴い保育士の配置数過多が生じ、キャンセル料も徴収できないため、利用する方と受け皿の両者が円滑に循環可能な体制作りが急務となっている。





## 2. 栃木県 病児保育室 ひまわり

病院名	新小山市民病院
-----	---------

## 栃木県小山市 新小山市民病院



# 子育てと就労の両立を支援します。

### 1. 事業所の概要

#### 【所在地の特徴】

新小山市民病院の敷地内に設置しており、小山市民は勿論、近隣特に野木町（自治体設置なし）住民には非常に重要です。子育て世帯も多く需要は高いです。



設置年月日	平成28年4月1日
実施場所	栃木県小山市神鳥谷2251番地1 新小山市民病院敷地内
開所日（時間）	月～金曜日（年末年始・祝日除く） 8：00～18：00
対象者	小山市・下野市・野木町・結城市内に住所を有する小学校6年生まで
利用定員	3名
H29年度利用者数	125名
事業従事者数	3名（保育士2名・看護師1名）
1日当たり利用料	生活保護世帯（小山市・結城市） 0円 市民税非課税世帯（小山市・結城市） 500円 その他の世帯（小山市・結城市） 2,000円 下野市・野木町 2,000円



# ☆子育てをしながら安心して就労ができる環境造り

### 【利用の流れ】

- ① 小山市こども課へ事前に「利用登録」を行う。
- ② 施設に電話で空き状況を確認する。
- ③ かかりつけ医師に「利用連絡票」を記入してもらう。
- ④ 当日、必要書類を持って施設へ行く。



### 【取組の効果】

- ・新小山市民病院敷地内隣接なので、かかりつけ医と連携することにより、自治体に病児保育施設のない野木町住民等でも、安心して子供が預けられる。
- ・新小山市民病院で働くスタッフの児童に限るが、必要に応じて吸入など施設で行えないものについて、当該従事者が来園して行うことができ、無理なく継続的に就労ができる。

### 3. 今後の課題

小山市病児保育事業として受託運営しており、受け入れられる児童数が、右表のうち最大2症例・3名までのため、必要な時に必ず利用できるとは限らないのが問題点である。

今後、ますます需要が高まった場合に、受け入れられない児童が増えてくると予想されることから、小山市を筆頭に友好都市である結城市、並びに下野市・野木町との連携を深め、就労する市民のニーズに合わせられるよう引き続き協議し、子育てと就労の両立を支援していきたい。



主な症例	
①	感冒・消化不良症（多症候性下痢）など
②	麻しん・水痘・風疹などの感染症疾患
③	ぜん息などの慢性疾患
④	骨折・外傷などの外傷性疾患
⑤	その他上記に類する疾患

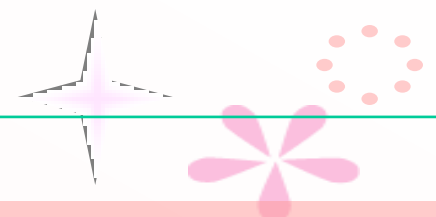




一般社団法人 栃木県医師会  
Tochigi Medical Association

# 栃木県医師会 女性医師部会

栃木県医師会常任理事  
栃木県医師会女性医師部会長  
滝田 純子



## 【女性医師部会会則】

### （目 的）

本部会は、栃木県医師会の定款に則り、女性医師の積極的参加による医師会活動の活性化及び女性医師の勤務環境の改善、社会的地位の向上、会員相互の親睦を図ることを目的とする。

### （役員構成）

部会長 1名  
副部会長 2名  
理事 若干名（令和元年5月23日現在 8名）

### （事 業）

1. 女性医師が働き続けやすい勤務環境の整備に関する事項。
2. 女性医師の学術研究並びに社会活動の支援に関する事項。
3. 女性医師相互の情報交換、親睦に関する事項。
4. 男女共同参画の医療政策や医療行政及び医師会活動に関する事項。
5. その他本部会の目的達成のために必要な事項。

### 会員数状況（平成31年3月31日現在）

医 師 会	医師会員数	2,204名
	（うち女性医師数）	（320名）
	女性医師割合	14.5%
女 性 医 師 部 会	会員数	230名
	（うち栃木県医師非会員数）	（93名）
	平成30年度加入者数	13名
	平成30年度退会者数	2名



## 運営工夫

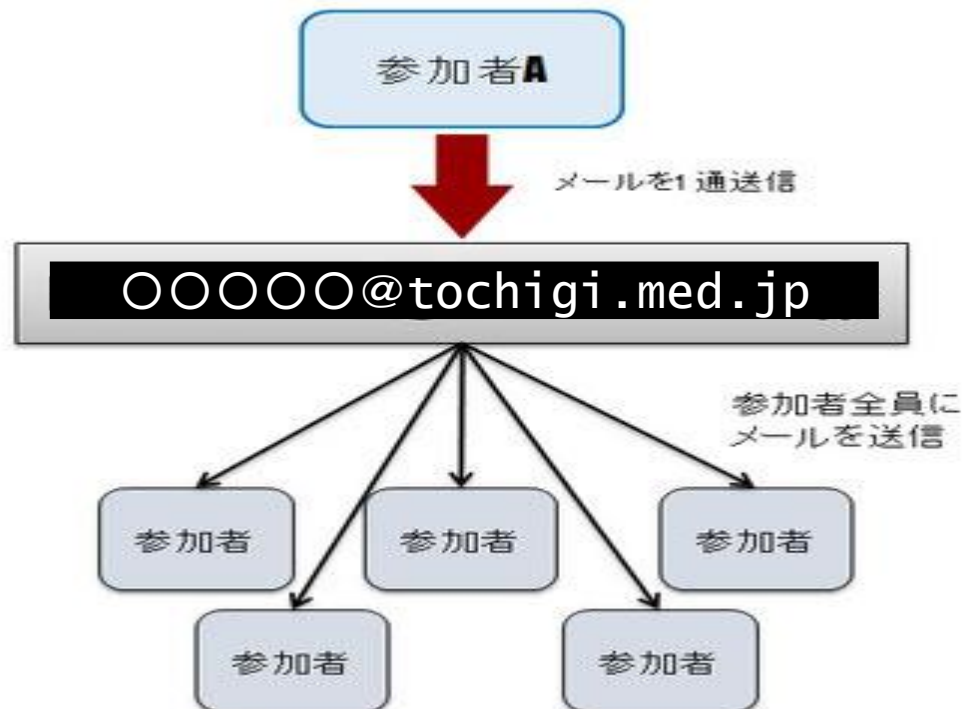
女性医師支援活動として、男女共同参画委員会、講演会（研修会）を通じて情報の共有に努め、すべての医師、医学生が協働して男女共同参画社会の実現を目指し、男女ともに子育てをしながら働き続けられる環境整備（保育所の設置推進など）、医師のワーク・ライフ・バランスの実現とキャリアアップ支援に努めているところであるが、更に女性医師の支援を強化することを目的に、平成27年度より、栃木県内の女性医師（栃木県医師会員・非会員問わず）を対象に、栃木県医師会女性医師部会を設置した。

### （メーリングリストの活用）

加入する女性医師への連絡・情報共有手段の一環としてメーリングリストを作成し活用しています。

### （会費無料性）

数多くの女性医師に加入を勧めることを目的に、栃木県医師会員のみならず非会員までもを対象に無料で加入できるシステムです。





## 事業実績

### ○平成27年5月27日理事会

### ○平成27年8月1日講演会

「女性が輝く社会の実現に向けて  
—女性医師に期待するもの—」  
内閣府男女共同参画局 局長 武川恵子先生

「2020.30実現に向けた取り組みについて」  
栃木県医師会女性医師部会長 滝田純子



### ○平成28年10月5日理事会

### ○平成29年1月21日講演会

「女性医療職のエンパワメントについて」  
参議院議員 自見はなこ先生

「日本医師会の女性医師支援に関する  
取り組みについて」  
栃木県医師会女性医師部会長 滝田純子





## 事業実績

### ○平成30年3月1日特別講演会

「事例から考えてみる  
在宅医療とワークライフバランス」

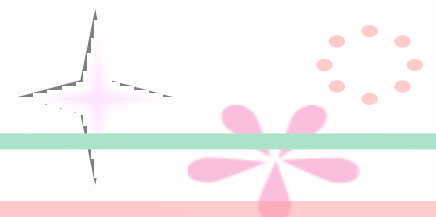
つるかめ診療所 所長 鶴岡 優子先生

### ○平成30年10月18日理事会

### ○平成31年3月14日特別講演会開催

「公衆衛生的な話題  
～保健所長からの一言～」

栃木県保健福祉部参事  
兼県南健康福祉センター所長 大橋俊子先生





## 事業実績

### 【保育サポーターバンクに関する調査・検討】

地域医療の確保には、女性医師や医療従事者の離職防止並びに復職するための環境整備が必要なことから平成27年度「有効な保育支援」について調査を行った。

集計結果から、病児・病後児及び急な仕事時の預かりや、自宅から保育所までの送迎等を目的とした「保育サポーターバンク事業」が有効な支援の一つと考え、準備委員会を設置し、ニーズ調査、事業の方向性、運営等について検討した。

- ①第1回委員会 平成29年7月6日（木） 17：30～18：25
- ②第2回委員会 平成30年1月19日（金） 18：30～19：25
- ③保育支援に関する調査 平成29年8月21日～9月8日 15事業所（うち14事業所回答）
- ④保育サポーターバンクに関する調査 平成29年8月21日～9月8日 約700名（うち95名回答）
  - 栃木県内女性医師 約700名
  - 女性医師部会会員（メーリングリスト活用） 316名
  - 自治医科大学附属病院 約100名
  - 独協医科大学病院 約100名

女性医師の離職防止、復職支援は重要な課題であり、医療機関からの急な呼び出しや、夜勤等、勤務時間が不規則な女性医師に対して、「保育サポーターバンク」は有効な支援の1つであり、アンケート調査結果から医師のニーズも一定数あることが分かったが、本会では財源的な面において課題が残り、継続的な運営を行うことが難しく、今後も財源確保に向け、検討を行うこととした。





## 今後の展望

女性医師が働き続けやすいように、社会全体が個々の医師のニーズに応じた多様な働き方を支援していくにあたって、ライフイベントにかかる負担の軽減を含めた職場の環境整備を進めるとともに、個々の医師が、モチベーションを維持・向上しながら自ら希望するキャリア形成を図り、医師として社会的役割を果たしていただけるよう支援を行っていきたいと思っている。

栃木県内の様々な現場で活躍されている女性医師のネットワークづくりをはじめ、保育支援、離職防止・復職支援、介護支援等の相談窓口の他、現場の課題や取組の工夫の在り方などについても検討していき、最終的には、男女ともにメリットをもたらす仕組みを作ることが大切であると思っている。